



# みくびだより

発行 御首神社社務所

## 御挨拶

拝啓 当神社の御神域も深い緑に包まれて新しい息吹が感じられるようになりましたが、皆様方に於かれましては愈々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

昨年八月八日に、天皇陛下におかせられましては「象徴としてのお務めについて」のお言葉を国民に向けてお述べになられてより、国として天皇陛下のご意向を真摯に受け止め、閣議を経て先般の国会にて「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」が決議され、この日より三年以内の施行が確立しました。

思い起こすに、お言葉のむすびには「我が国の長い天皇の歴史を改めて振り返りつつ（中略）どのような時にも国民と共にあり（中略）象徴天皇の務めが常に途切れることなく、安定的に続いていくことをひとえに念じ」とありますように、私共国民はこれまでの慈悲溢れる大御心と御聖徳を再び思い起こし、今一度長い歴史を真剣に学び直し、恐れ多くも陛下と共にその時を迎えるのが望ましいと思えます。

しかしながら、私は今も尚「陛下には今後とも幾久しく御在位いただければ、これ以上ありがたく幸せなことはない」の想いで一杯であり、恐らく多くの国民も陛下のお言葉を拝聴するまでは、等しく懐いていた想いであり、今も心の奥底に共有されている想いであると信じて疑いません。

時は同じく秋篠宮家のご長女、眞子内親王殿下のご婚約の朗報が報道機関より発表されました。突然のご発表に驚くと共に一国民と致しましてはこの上ない喜びと謹んでお祝い申し上げます。今後益々の皇室の弥栄をご祈念申し上げますと存じます。さて、五月二十七日御首神社崇敬会の伊勢神宮参拝研修旅行が催行されました。ここ数年参加人数が伸び悩んでおりましたが、本年は頗る参加人数が伸び、バス二台での研修旅行となりご理解ご参加下さいました会員の皆様には御礼申し上げますと共に、今後末永く崇敬会活動並びに崇敬会の発展にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の御多幸と御健勝を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

祭事報告(十二月、六月)

年越大祓

十二月三十日

毎年二回行われる大祓神事の後期分にあたります。先ずは殿内におきまして宮司以下祭員にて大祓を奏上、続いて拝殿前に移動し、皆様が知らず知らず受け犯した罪穢れを託されました人形を忌み火にて丁重にお焚き上げ致しました。

元旦祭

一月一日

一年で一番初めに行われる祭典です。国の隆昌と世界の恒久平和を願い厳肅に斎行致しました。境内では、拝殿前に続く参道が初詣にお見えの崇敬者で埋め尽くされ賑わっております。



祝詞奏上

左義長

一月十五日



雪の中の参進

本年の左義長は、前日夜半からの降雪のため、早朝から氏子総代役員総出にて祭場の雪かきを行い、定刻に雪の降る中ではありましたが無事斎行された。

火炉の中には、昨年一年間に亘りご守護戴きました御神符や御守り・注連縄(しめなわ)や正月飾りの類が納められており、感謝の祈りと共にお焚き上げ致しました。当日は終日雪がチラホラ舞っておりましたが、一年に一度のお焚き上げの機会とあって、多くの参拝者がお見えになり、境内はとても賑やかでありました。また、予定通り正午過ぎには無事お焚き上げを納める事ができました。

浄火祭

二月三日

ご祈祷をお受けになられた方々が、ご神前に捧げられました金幣串やご自宅の神棚等に奉られました祈禱神璽(きとうしんじ)や紅白串を始め皆様祈願奉納されたました絵馬や帽子は、諸願成就を願いお焚き上げいたしました。

焚き上げの最中は、神職らによる大祓詞が奏上され、火炉の周りでは、氏子区域から選出された厄男が、「氏名 心願成就」と連呼しながら祈願絵馬と金幣串を次々と火炉にくべました。

参道脇では、敬神婦人会のご助成にて毎年恒例の甘酒が振る舞われ、ご参拝の皆様は生姜のきいた甘酒で冷えきった体を暖めておみえでした。



手前：厄男 奥：神職

祈年祭

二月十一日



焚き上げ中

「としごひのまつり」とも言われ、三大祭(例祭・祈年祭・新嘗祭)の一つに数えられます。今年の五穀(米・麦・粟・豆・稗)豊穰を祈ると共に、皇室のご安泰を祈り奉り、あらゆる産業・工業の発展と国家の無事安泰を願いました。

欽山神社例祭

三月十七日

当社の境内社として本殿の北東に、伊勢神宮の外宮(豊受大神)をお祀りしております。

当日は、予定通り宮司以下祭員二名にて滞りなくお仕えいたしました。



例大祭

四月二日

今年の例大祭は、桜こそ咲き初めでございますでしたが、陽射しは穏やかで風もなく、とても過ごしやすい良き日となりました。

午前八時頃から境内には、お神輿を担ぐ子供達が揃いの法被姿で



発輿祭

賑々しく集い、拜殿前にて子供神輿の発輿祭が済みますと、子供達はソレッと言わんばかりに「わっしょい、わっしょい」と活気に満ちた掛け声を氏子区域町内に響かせながら練り歩きました。



御神輿巡幸中



打ち囃子の様子

午後には、境内の特設舞台で歌謡ショーや手品などが次々と催され、例大祭開始間際には、氏子区域の子供たちによる「打ち囃子」が披露され、ご参拝の皆様は楽しそうに聞き入っていました。

午後三時、献幣使をお迎えし、宮司以下祭員氏子総代及び多数の崇敬者により、恙なく神事が進められる中、楽人による雅楽に合わせ、舞楽「蘭陵王」も奉納され優雅にして儼かに斎行されました。



献饌（御供物を供えます）

日も暮れ境内も鎮まりかけた午後六半過ぎには、打ち囃子の法被をまとった子供らが、町内の外れから隊列を組んで、太鼓・拍子木・笛の音色を辺りに響かせ乍ら当社に向かいます。その頃境内一円には、昔ながらの提灯に柔らかな口ウソクの灯火がいくつも灯り、幻想的な雰囲気の中に子供達を迎え入れます。到着後、早速拜殿前にて「打ち囃子」が奉納され、続いて代表者に併せて拝礼を行い無事に本楽祭を納めることが出来、祭

の終演と共に灯火はゆっくりと闇にのまれ、日常にもどって行くように感じられました。



夜の境内

本殿の相殿社（正面の東扉内）に鎮座し、金山彦命をお祀りする南宮神社の例祭を恙無く斎行いたしました。

五月四日

南宮神社例祭

境内の手水舎の南側にある神饌田前にて、神事が行われました。その後、宮司自ら早苗の植え付けをいたしました。

お田植祭

六月六日



神饌田

この神饌田から収穫されます初穂は、十一月二十三日の新嘗祭にご神前に供えられた後に、ご祈祷のお下がりとして皆様にお頒ちしております。

農休祭

六月十八日

当地方で六月中旬から七月初旬に掛けて多く見られる神事で、田植えが無事に済みました事への感謝と、今後の稲の無事成長を願い執り行われました。

月次祭

毎月一日・二十日

## 神社について

神社には、一つの社殿に神様が単独でお祀りされている社殿もあれば、複数の神様が一緒に祀りされている場合もございますし、また、境内の主たる社殿以外にもお社が点在してお祀りされている場合もございます。

では、先ず単独でお祀りされている神様は主神（しゅしん）と言い、続いて複数の場合は、主神以外の神様を配神（はいしん）・配祀神（はいししん）と称し、専ら相殿神（あいどのしん）とも呼ばれております。

さて、当社のご本殿には三つの扉が有り、中央の御扉内には、主神（平将門公）の御霊をお祀り申し上げ、向かって右側の御扉内に



拝殿から撮影

## 境内社

は、南宮神社（金山彦命）をお祀りし、左側の御扉内には、西宮神社（蛭子命）をお祀りしております。南宮神社と西宮神社は相殿神でございます。

次に、神社の境内に本社以外のお社が建立されている場合がございます。こちらは「撰社」（せつしゃ）或いは「末社」（まつしゃ）となります。かつて戦前には両社を区分する基準が設けられておりましたが、現在においては、特に区分する規定は無く、ご本社の管理下にある小規模神社の呼称として用いられており、地縁やご本社と縁のある神様がお祀りされている場合が多く見受けられます。

これら境内に鎮まるお社を「境内撰社・境内社」、境内の外にあるお社を「境内外撰社」とし、単に「境内社」・「境外社」とお呼びしております。

一方、伊勢神宮では『延喜式神名帳』に記載のある官社を「撰社」とし、『延暦儀式帳』に記載のある社を「末社」と定めております。また、それ以外に神宮と密接な関

鍬山神社

神明神社



末廣稲荷神社

係により古くから祀られてきたお社を「所管社」と呼んでおります。

因みに当社においては、本殿の北西に位置する神明神社（御祭神・天照大神）、同じく北東に位置する鍬山神社（御祭神・豊受大神）そして、本殿東側に鎮座する末廣稲荷神社（御祭神・宇迦之御魂）の三社が「境内社」となります。

当社を含めまして、皆様も散歩やご旅行などで、各地の神社にご参拝の折には、ご本社のお参りのみではなく、共にお祀りされておられる神様に、また時には境内社にも足をお運びの上、ご参拝旁々ご本社との関わりをひもどくのもまた一つ参拝の楽しみが増えるのではないのでしょうか。

## 御首神社ホームページ 神職への質問Q&A

**問** 近々、安産のご祈禱をして頂きたいのですが、母から戌の日が良いと聞いております。中都合の良い戌の日がなく困っている次第です。戌の日以外のご祈禱は駄目でしょうか？

また、腹帯は神社にございませうか、それともこちらで用意して伺えば大丈夫でしょうか？

**答** ご祈禱は、戌の日以外でもお仕えておりますので、ご自身・ご家族のご都合に合わせてご参拝下さい。

腹帯につきましては、当社でご用意致しかねますので、ご自身でのご用意をお願いします。ご祈禱の受付時にお預かりし、朱印を押ししお被いたします。

これは参考ですが、腹帯のお被いのみは受け付けておりませんのでご了承下さい。

**纏め** ご祈禱を受けるに際し、日柄や「良い」とされる日「があります、皆様のご都合をみて、無理なく参拝できる日」「ご祈禱日和」と言えるのではないのでしょうか。



# 祭事案内(七月〜十月)

## 西宮神社(相殿社) 例祭

七月十七日

本殿西扉内に鎮座し、蛭子命をお祀りする西宮神社の例祭です。

この蛭子命は、兵庫県西宮市の西宮神社の御祭神で、商売繁盛・事業繁栄の御神徳がごさいます。

## 末廣稻荷神社例祭

八月六日

戦後間もない昭和二十四年、京都の伏見稻荷大社より御分霊を賜り、境内の東側に御鎮座しております末廣稻荷神社の例祭です。お祭り当日は、氏子区域内の子供たちが行灯に貼る絵を心を込めて描き奉納頂きます。

行灯は、末廣稻荷神社参道に掲げられ例祭を華やかに彩ります。



末廣稻荷神社例祭

## 夏越大祓

八月六日

年二回行われる大祓神事の内の一つで、半年間に知らず知らずの内に受け犯している罪・穢れを人形に託してお焚き上げし、年の瀬まで無事健康に暮らせますようお願いになります。



茅の輪くぐり神事

神事は、末廣稻荷神社例祭終了後に、境内の遥拝所前にて斎行されます。

お被い神事の後に「茅の輪くぐり」が行われますので、ご参列の皆様は神職に続いて茅の輪くぐりをしていただきます。

尚、季節柄暑さ厳しい時期ではございますが、茅の輪くぐりは、



左：人形・右：申込封筒

当日日没までご参加頂けますのでご参拝をお待ちしております。

人形(ひとがた)と申込封筒は社頭にご用意いたしておりますので、必要事項をご記入の上、身体を撫で息を吹きかけ、申込封筒にお志しと共に納め、社務所にお申し込み下さい(右写真)。ご不明の点は社務所にてお尋ね下さい。

## 長寿祈願祭

九月十五日

当社の鎮座します宇留生地区の長寿会の皆様をお招きして、健康であることへの感謝と更なるご健康とご長寿を祈願いたします。

## 神明社例祭

十月十七日

本殿の北西に鎮座し、伊勢神宮の内宮、天照大神をお祀りする神明社の例祭です。

## 崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させていただきます。

## 会員の特典 (抜粋)

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

## 会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

お問い合わせ先  
神社社務所まで  
〇五八四 九一 三七〇〇

祭事案内(十一月)

七五三

十月

三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社に参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願うものです。

その昔、男児女兒ともに髪を剃る習慣があったとされ、三歳になると髪を伸ばし始める歳と定め、「髪置きの際」と呼びます。

また、五歳は男の子が袴を履き始める歳として、五歳の七五三を「袴着の義」と言います。

そして、七歳は女の子が子供用の帯から大人の帯を締め始める歳になるため、七歳の七五三を「帯解きの儀」と呼ぶようになったと伝わっております。

平成29年 七五三

年齢	数え歳	満年齢
	平成	平成
7歳	23年	22年
	生まれ	生まれ
5歳	平成	平成
	25年	24年
3歳	生まれ	生まれ
	平成	平成
3歳	27年	26年
	生まれ	生まれ



お祝いの年齢は、古くから数え歳でありました。しかし、現在では満年齢で数えられる方も沢山お見えます。また、男女共に三歳・五歳・七歳でお参りされる方も増えてまいりました。記載の年齢表をご参考の上、ご都合に合わせてご参拝下さい。七五三のご祈禱は十月から年末にかけて随時お仕えいたしております。

崇敬会大祭

十一月三日

一年に一度、崇敬会会員のための大祭です。御首の大神様の常の御守への感謝と、皆様のご家族の無病息災・家内安全・生業繁栄・子孫繁栄を願います。

当日は、県内外より多くの会員の方が集まり、会員皆様それぞれ交流を深めておられます。

新嘗祭

十一月二十三日

三大祭(例祭・祈年祭・新嘗祭)の一つで、古より大切な神事として行われて来ました。

その年の五穀の収穫への感謝と、初物を神様に食して頂き、皇室のご安泰を祈り、国家の安泰をも願う神事です。

ご神前のお供えの中には、毎年六月初旬境内の神饌田に植付けし、十月中旬に収穫された御初穂がお供えされます。

月次祭

毎月一日・二十日

**末廣稻荷神社**  
**参道幟 募集中**

末廣稻荷神社参道の朱色の幟旗は、毎年末廣稻荷神社例祭(八月)とお正月に新調します。ご奉納頂きました幟は、約半年間に亘り参道に掲げられます。

お稲荷さんと聞きますと、「商売繁盛」を連想されますが、穀物

(食物)の神様であり、命を育む上で最も大切でありまして、家内安全・商売繁盛・健康・子孫繁栄に繋がっていきます。幟を奉納される方の中には、「家族が食に困らずに元気で暮らせますように」とおっしゃる方や、また誕生記念などの慶事の節目節目に奉納になる方も多くお見えます。



八月取替予定の幟の申込にはまだ余裕がございますので、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。随時先着順にて受付させていただきます。

\* 幟一对 初穂料 三千元

編集後記

「神社について」と題しまして特集しておりますが、特筆希望などございましたら、お気軽にお寄せ下さい。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一  
Eメール [syamsyo@mikubi.or.jp](mailto:syamsyo@mikubi.or.jp)  
TEL(〇五八四)九一 三七〇〇